

健康診断部  
循環器内科

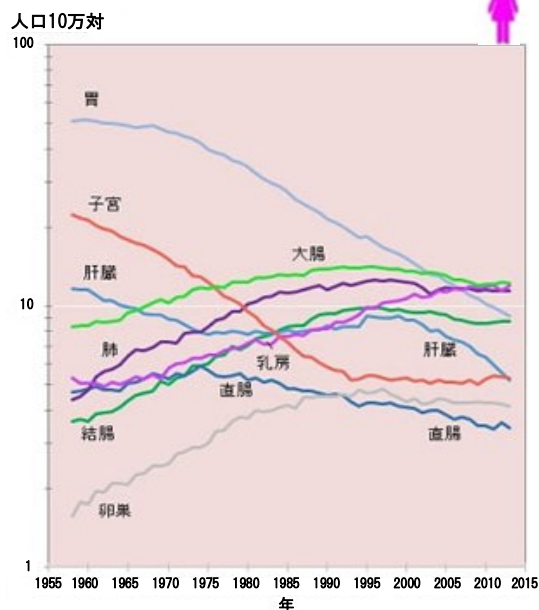
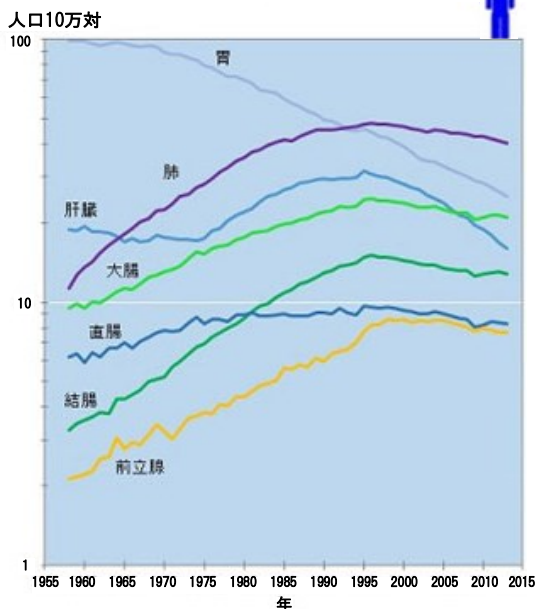
- 肺がん検診を強化しました
- 循環器内科のミニトピックス

健康診断部診療部長 宮田 健二  
(循環器内科医師) Miyata Kenji

●肺がん検診を強化しました

2014年の日本全体のデータでは、年間7万3千人以上（男性5万2千、女性2万）が肺がんでなくなっています。近年、死亡率では男性の第一位まで増加しています（Fig.1）。また、5年生存率は低く報告されているため、検診による早期発見がより重要な疾患です。これまで、当センターでは肺CTを行ってききましたが、喀痰細胞診（喫煙者に有効で当センターでは3日間蓄痰）と、血液検査（腫瘍マーカー）を新たに追加しました。また、所見が確認された健診者には、健診センターで当院内科外来の予約を行い、迅速に専門科を受診いただけるフローを作成しました。

部位別がん年齢調整死亡率の推移



国立がん研究センター・がん対策情報センター

(Fig.1)



健康診断部は前身の九州厚生年金病院が開院後まもなく設立され、これまで一貫して生活習慣病の予防や疾病の早期発見に努めてきました。健診者に現

在の健康状態を知り、生活習慣を見直して、健康的で充実した生活を送っていただくことを目標としています。現在、常勤医師と二名の非常勤女性医師が、一人一人にきめ細かい判定を行っています（Fig. 2）。健診内容に関しては、当院ホームページをご参照下さい。



(Fig.2)

### ●循環器内科のミニトピックス

心疾患患者およびご家族と、病院のボランティアの方を対象に、心肺蘇生講習会を行いました（Fig.3）。これまでも、心臓リハビリテーションに係わる看護師・リハビリ士が定期的に講習会を行っていましたが、今回はアメリカ心臓協会ファミリー&フレンズCPRコースに準拠した形式で開催しました。ビデオのデモンストレーションを見てマネキンで実践する内容で、日本循環器学会が後援しています。ビデオでデモを行い質が担保されるため、受講者の感想は概ね良好でした。実は、我々インストラクター側もスキルアップすることができるのです。

ウツタイン大阪プロジェクトの報告では、日本における成人心停止例の75%が自宅で発生しています。AEDを整備し、病院で心肺蘇生講習会を実践することは必要ですが、特に心疾患を有する方はご家族が第一救助者となる可能性が高く、今回のようなファミリー&フレンズコースはより重要と考えます。今後も、心臓リハビリテーションスタッフと、定期的にコースを開催していく予定です。



(Fig.3)

※★…プライバシー保護のため画像加工しております